

科目名	思想の歴史	担当教員	宇都宮輝夫 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	-------	------	---------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	1年次	後期	1単位	講義

科目概要	<p>医療者が医療の現場で倫理的問題に遭遇したとき、しばしば自文化中心的な思考ないし近代主義的価値観に無自覚・無反省に沿う形で判断を下す。人類史に積み重ねられてきた膨大な思考の成果を人類の知的遺産として活用しないなら、極めて近視眼的で底の浅い判断に陥る。この授業では、そうならないための思考訓練をする。</p> <p>生に関わる諸問題の人間の叡智は、哲学と宗教の中に結実している。伝統的には、それが人間生活を導く大柱をなしてきた。人間がどのような生き、どう行為すべきかが不分明になりつつある現代では、人は自己の生活を半ば意識的に構築していかなければならない。こうした努力はまったくの白紙状態で論理的になされるわけではない。世界中で蓄積されてきた生の叡智を学ぶ中で、現代になお生かす知恵を探し求め、正しい生き方の自覚的形成を促す。</p>
学習目標	<p>すぐれた医療者になるためには、一方では専門的職業訓練を積みつつ、他方では人類の知的遺産に学んで人間理解を深めなければならない。精緻な議論を理解するために、それと粘り強く取り組む訓練をする。</p>

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	西洋近世以降の哲学	西洋近世の倫理思想として、カントと功利主義を学ぶ。いわゆる義務論と功利主義という対極的な思想を比較しながら学ぶ。	医療資源には限りがある。それを最も有効に使用すれば、功利主義的な考えを取らざるを得ない。しかし一人ひとりの人間は数量に還元できない固有の価値を持つ。医療はしばしばこのジレンマに陥る。このような時に、カント哲学と功利主義という対極的な考え方を思考の道具として身につけるなら、短絡的結論に陥らないようになる。	
2	西洋近世以降の哲学	西洋近世の倫理思想として、カントと功利主義を学ぶ。いわゆる義務論と功利主義という対極的な思想を比較しながら学ぶ。	医療資源には限りがある。それを最も有効に使用すれば、功利主義的な考えを取らざるを得ない。しかし一人ひとりの人間は数量に還元できない固有の価値を持つ。医療はしばしばこのジレンマに陥る。このような時に、カント哲学と功利主義という対極的な考え方を思考の道具として身につけるなら、短絡的結論に陥らないようになる。	
3	古代ギリシアの哲学	ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想には、人間と倫理に関する普遍的な問いかけが含まれている。彼らの提起した問いと答えを吟味する。いわゆる徳倫理学を学ぶ。	西洋哲学の源流、哲学の原点がわかる。	
4	責任倫理と心情倫理	行為の善し悪しは、結果から判断されるべきか、それとも動機から判断されるべきか。どちらか一方だけで現実の行為を判断できるものではないことを学ぶ。	現実の応用問題を出すので、責任倫理と心情倫理の両側面から議論できるようにする。	
5	ホブズ、フロイトと社会倫理	自分の利益しか考えない人間同士の間で、どうして、どのようにして他者に配慮する道徳が生まれたのか。ホブズとフロイトはよく似た考えを提示している。それらを学ぶ。	道徳の起源に関するホブズとフロイトの思想は、一見もっともらしく聞こえる。しかし彼らの考えの基本的欠陥は、人間を利己的存在としてしか見ていないところにある。それは人間の一面にすぎず、もうひとつの面は社会性である。人間のこの二面性を理解できるようにする。	
6	ホブズ、フロイトと社会倫理	自分の利益しか考えない人間同士の間で、どうして、どのようにして他者に配慮する道徳が生まれたのか。ホブズとフロイトはよく似た考えを提示している。それらを学ぶ。	道徳の起源に関するホブズとフロイトの思想は、一見もっともらしく聞こえる。しかし彼らの考えの基本的欠陥は、人間を利己的存在としてしか見ていないところにある。それは人間の一面にすぎず、もうひとつの面は社会性である。人間のこの二面性を理解できるようにする。	

7	脳神経科学の認識論	脳神経科学の発達はめざましい。その中から、人間の認識の成り立ちを解明した議論を紹介する。ここからさらに、現代の言語学で革命を起こしたソシユール言語学をも学ぶ。	失語症などの疾患研究から、人間の認識が知覚イメージと意味（概念）との結合として成り立っていることがわかっている。この発見はきわめて重要で、影響範囲も広い。「わかる」とは一体どういうことなのかを理解する。 現在のAI研究がぶち当たっている壁の一端もわかる。	
8	脳神経科学の認識論	脳神経科学の発達はめざましい。その中から、人間の認識の成り立ちを解明した議論を紹介する。ここからさらに、現代の言語学で革命を起こしたソシユール言語学をも学ぶ。	失語症などの疾患研究から、人間の認識が知覚イメージと意味（概念）との結合として成り立っていることがわかっている。この発見はきわめて重要で、影響範囲も広い。「わかる」とは一体どういうことなのかを理解する。 現在のAI研究がぶち当たっている壁の一端もわかる。	
<b>評価方法</b>		数回の小試験、期末試験、授業への積極的参加度で評価する。		
<b>教科図書</b>		教員作成教材。		
<b>参考図書</b>		各回の授業時に指示をする。		
<b>学習の準備</b>		かなり大量の資料があるので、それをあらかじめ熟読してくる。最低でも2回の精読が必要である。		
<b>オフィスアワー</b>		在室時はいつでも可		
<b>担当教員欄に※印を付した教員の 実務経験</b>				